

学校経営の大綱

〔出雲崎小学校〕



1 教育目標

だれとでも仲よくする子 すすんで学びとりくむ子

○ めざす児童像について

子どもたちは、いろいろな人とかかわりながら心を成長させていく。「うまくいくこと」もあれば「うまくいかないこと」もある。しかし、それらを粘り強く一つ一つ乗り越え、積み重ねていくことが本人の中で「自信」となり成長の足跡として残って行く。

子ども同士が互いを認め、励ますことでその作用はさらに強くなる。この「仲間意識」を醸成することは、学校の大切な役割のひとつである。出雲崎に生きる子どもたちにつけたい力である。子どもたちの好奇心は旺盛で、学びたいという気持ちをもっている。「させられる」ことが「したい」ことになったとき、真の学びが始まる。

そして、「できなかったことができるようになった。」という達成感や自分のしたことが「みんなの役に立ってよかった」などの自己有用感が生まれ、「自分は、なかなか頑張ったな」という自尊感情が基になり自主性が育つ。

さらに、そこに自分の将来を思い描きながら、今の自分に何が大切なのかを考え、粘り強く目標に向かって努力を重ねられる子どもたちにしたい。

みんなで励まし合い、力を合わせて活動すると



心が豊かになり、本当の楽しさを感じることができる



「またみんなと一緒にやりたい」「自分の力を伸ばしたい」
「もっと楽しくなるように工夫したい」「自分も、みんなの役に立ちたい」
「他の人にもこの楽しさを一緒に味わってもらいたい」。

教育目標はこういう気持ちを育てていく中で育まれていく。その具現に向けて学校、保護者、地域が三位一体となった取組を進める。

2 子どもたちにつけたい力

知・徳・体のバランスのとれた力を育んでいきたい。

『知』：基礎基本を身に付けた確かな学力こそが仲間とともに学ぶ原動力となる。そのために「聞く・話す」力の伸長は欠かせない。そして「学ぶ」意欲の向上を図っていく。

『徳』：仲間を思いやる心こそ、基本である。

『体』：最後まであきらめないでがんばろうという「気力・体力」が全ての活動を支える。これらを総合した力を「出雲崎学力」と規定し、出雲崎の子どもを育てていく。

3 教育目標具現への歩み

昭和 53 年に西越小学校上校舎・下校舎が統合し、新校舎が現在地に竣工した。平成 12 年に旧出雲崎小学校と統合し、現在の出雲崎小学校となってから今年度は 19 年目を迎える。校地は小高い丘にあり、校舎裏はナラの木が茂る貴重な里山である。そこは「ほなみが丘」と名付けられ、小鳥がさえずる自然豊かなオアシスで、子どもが大好きな遊び場になっている。

地域の人々は協力的で、登下校の安全確保や学校ボランティア等に積極的で、共に子どもを育てていこうとする良き気風に溢れている。そういった環境の中で伸び伸びと子どもたちは育ってきている。

28, 29 年度は「宝がいっぱい！出小!!」を合い言葉とし、一人一人が出小の宝物を探してきた。30 年度は、「3つの愛～学び愛，励まし愛，響き愛～」を新たな合い言葉とし、子どもたち同士のかかわりを大切にした教育活動を展開していく。

4 教育目標具現のための「推進力」

地域の力

出雲崎町は、豊かな自然・歴史・文化・産業等に恵まれている。そのほとんどが教材に活用できるほど、教育財産の宝庫である。また、学校支援地域本部事業の成果により、当校の教育活動に地域の専門家の協力態勢がしっかりできている。29 年度も、1 年間で延べ 800 名近くの学習ボランティアから、子どもたちの学びに協力をいただいた。また、町のスクールバス等を最大限に活用した地域学習も充実することができた。この地域と一体となった学びは、出雲崎小学校の教育の特色であり、今後一層、成果があがるように改善していく。

また、27 年度発足した「ほなみが丘またぎ」の皆さんからは、29 年度もほなみが丘の整備だけにとどまらず、校庭の樹木の伐採や雪山づくりなど大いに活躍いただき、感謝している。

保護者の力

保護者と学校は互いに子育てのベストパートナーでありたい。連絡を密にして、家庭の教育力や PTA 活動など、大いに保護者の力を借りる。信頼関係を構築し、双方向の連絡が取り合えることを心がける。電話や連絡帳より“face-to-face”が基本と肝に銘じる。

教職員の力

支え合い、磨き合う教職員集団でありたい。

ア 児童の最大の教育環境は教職員

真似るが学ぶの語源。教師の言動、教育への情熱、人間関係力等の手本を示す。

イ 児童理解と個に応じた指導

一人一人の「困り感」に寄り添い、解消に向けて取り組む。

ウ 問題解決は、全教職員の英知と行動力を結集

「報告・連絡・相談・確認」を最重視し、組織的な対応や実践を進める。

エ 児童、保護者、地域との信頼関係づくり

非違行為を出さない、生まない規範意識の高揚

非違行為根絶に向けて、互いに声がけし意識を高め合う。

5 今年度、力を入れて取り組む具体策

児童の実態と学校の実情を考え、次の 3 つの柱からの具体的な取組を通して、子どもたちの健やかな成長を図っていく。

○確かな学力向上

- ・朝読書，朝学習の充実
- ・授業のUD化の推進
- ・家庭学習の徹底（学年×10分を基本）
- ・「問い」を大切にした授業改善
- ・発表の場の充実

○豊かな心の育成

- ・「心耕」を大切にした活動の充実
- ・家庭と連携した自己有用感の育成
- ・道徳教育の充実
- ・特別支援教育の充実
- ・交流活動の改善と充実

○健やかな体づくり

- ・体力向上プログラムの実践
- ・健康的な生活習慣の定着
- ・メディアコントロール能力の育成
- ・遊びの充実を図る環境整備
- ・食育教育の充実

